



高尾山のいきものたち

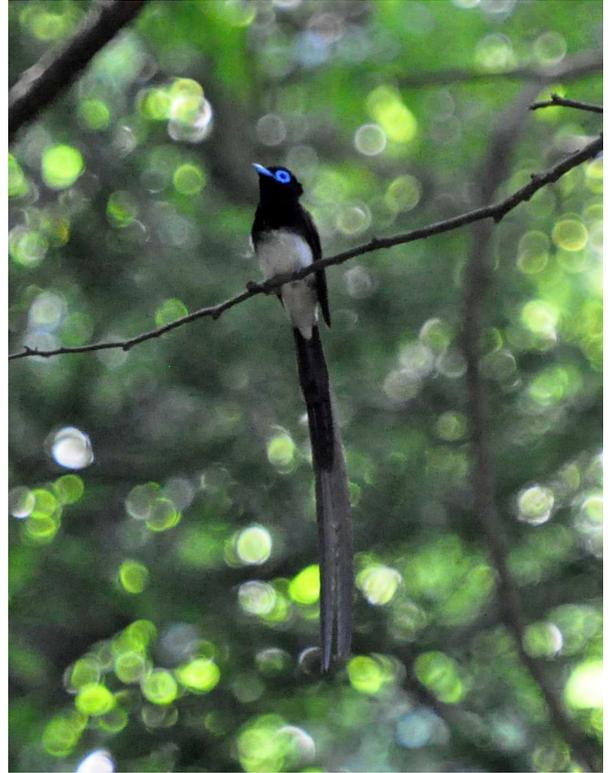
サンコウチョウ

(カササギヒタキ科)

尾が弓のように長く、目の周りが輝くコバルトブルー。雄は、全長約45cmのうち30cm位が尾で、他の鳥を追い払うため身体を大きく見せている。雌は、全長18cm位で、上面は茶褐色。雄雌ともに、眼の周囲と嘴が明るい水色をしている。

5月頃に渡来する渡り鳥で、平地から低山の針葉樹と広葉樹が混じった暗い森で7月頃まで繁殖を行い、9月頃に南の国に渡る。餌は昆虫やクモ類で、飛びながらでも餌を捕らえる。「月日星ホイホイホイ」のように鳴き、三つの光が入るので三光鳥と呼ばれる。子育ては雄雌共同で行い、大型のトンボやチョウも含めて多くの餌を雛に与える。そのようなたくさんの昆虫が棲む日本の豊かな森で、命をつないでいる美しい鳥だ。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.59

ブナ

(ブナ科)

ブナは、北海道の南部から九州に分布する落葉高木です。

高尾山には江戸時代の小氷河期の生き残りといわれているブナがわずかに残っています。

名前の由来は、ブナの林を吹き抜ける風の音が「ブーンと鳴る」樹だからとか、役に立たない木なので「ぶんなげる樹」から「ぶな」となったなどの説があります。

ブナの実は、野生動物の貴重な餌となっていますが、豊凶が激しく5～7年間隔で豊作がやって来るため、野生動物の生息数に大きく影響を与えます。

ブナの材質は、通直な木目で、加工性、接着性はよく、衝撃にも強いのですが、変色、腐食しやすく、きちんと乾燥を行わないと、曲がり、よじれなどが生じてしまいます。

昔は、用材としては利用されずに、薪や炭材の下等品とされてきました。

戦後は、製紙原料や枕木として利用され、加工技

術の発達により、内装材、フローリング、家具材などへの利用のほか、特にベニヤ板はパチンコ台に利用されるようになりました。

なお、現在は伐採量が減り、流通量が極めて少なくなっています。(皿)



高尾山のブナ



ブナの材面



実と種子

令和3年度森林カレッジの受講生が決定いたしました。

毎回好評の森林カレッジについて、受講生が決定いたしました。応募いただきました皆様、ありがとうございました。集合時間や場所などは、開催前に詳細を連絡いたします。

残念ながら抽選から漏れてしまった方におかれましては、来年度ぜひご応募いただきますようお願いいたします。

今年度の森林カレッジは以下の4回です。

【カレッジⅠ】

日程 令和3年5月15日（土）
内容 講義「森林の見方」
森林散策
講師 一般社団法人 森林・自然環境技術者教育会
会長 桜井 尚武 氏



森林観察

【カレッジⅡ】

日程 令和3年7月3日（土）
内容 講義「森に学ぶ～森づくり ことづくり
ひとづくり～」
体験作業（下草刈り）
講師 東京農業大学 教授 宮林 茂幸 氏



下草刈り

【カレッジⅢ】

日程 令和3年10月9日（土）
内容 講義「木の成長としくみ」
※講義のみ
講師 元多摩森林科学園 園長 三輪 雄四郎 氏



講 義

【カレッジⅣ】

日程 令和4年1月15日（土）
内容 講義「森林の恵みと共に～炭焼き、そして
森林の香り～」
体験作業（炭焼き）
講師 東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏



炭 焼 き

受講生の皆様へ

昨年度は新型コロナウイルス感染症対策のため残念ながら中止の回もありました。今年度も緊急事態宣言等の規制があれば、中止する回があるかもしれません。その場合は何卒ご了承下さい。

編集後記

緊急事態宣言等の発令により、当センターのクラフト体験室・展示室も休館中です。申し訳ございませんがご了承下さい。

コゴメウツギの花



Forest通信 NO.387

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

